

2020年12月期 第115期 業績概要

2021年2月12日
日東精工株式会社
(証券コード 東証1部:5957)

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

2020年12月期 第115期（連結）業績ハイライト



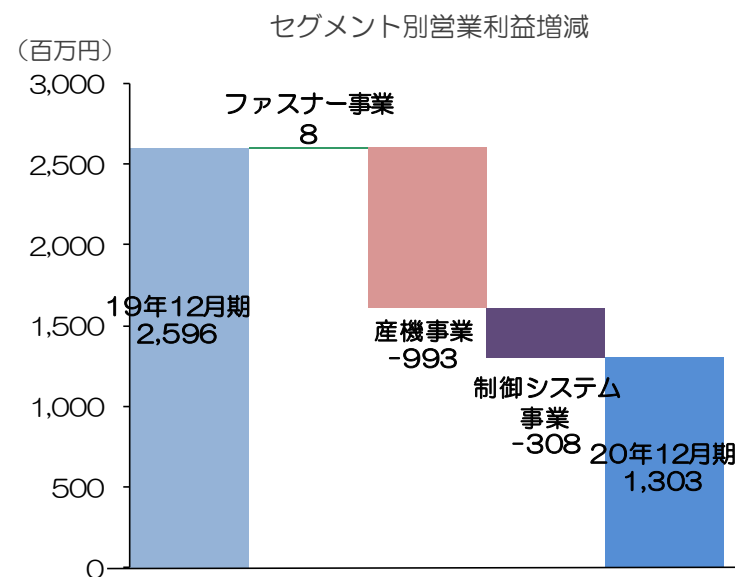
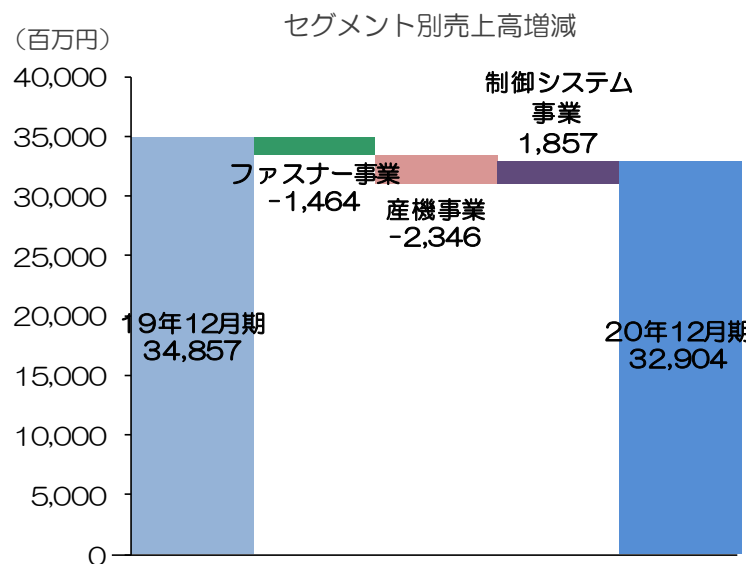
単位：百万円／%	19年12月期		20年12月期		前期比		20年12月期 業績予想比（2020年11月13日）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	予想金額	増減額	増減率
売上高	34,857	100.0	32,904	100.0	△1,952	△5.6	32,500	404	1.2
売上総利益	8,477	24.3	7,640	23.2	△836	△9.9			
販売管理費	5,880	16.8	6,337	19.3	456	7.8			
営業利益	2,596	7.5	1,303	4.0	△1,293	△49.8	1,200	103	8.6
経常利益	2,853	8.2	1,418	4.3	△1,435	△50.3	1,300	118	9.1
税金等調整前当期純利益	2,971	8.5	1,359	4.1	△1,611	△54.2			
親会社株主に帰属する当期純利益	1,937	5.6	764	2.3	△1,172	△60.5	700	64	9.3
一株当たり当期純利益（円）	52.08		20.78				19.01		

- 一昨年6月に松浦屋を、昨年4月に日東精工アナリテックを連結子会社化するなどグループの事業再編を実施し、売上高の拡大に寄与するも、コロナ禍による国内、海外子会社の受注減少の影響は大きく、△5.6%の減収。
- 減益ながら、グループ挙げて費用圧縮や改善活動を展開し、この環境下でも一定の利益を確保。
- 巣ごもり（外出制限）製品の主力となるゲーム機の増産により、当社精密ねじが好調で利益創出に貢献。
- 昨年秋以降、自動車業界を中心にねじの受注が回復し、会社全体の売上高は前期比微減にとどまった。
- 会社全体の売上は前期比微減ながら、利益面で業績を牽引していた産機事業が設備投資の延期、凍結により売上減少幅が大きく、利益を押し下げた。

セグメント別売上高・営業利益（連結）



単位：百万円／%		19年12月期	20年12月期	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	24,903	23,439	△1,464	△5.9
	営業利益	548	557	8	1.5
	利益率	2.2	2.3		
産機事業	売上高	7,800	5,454	△2,346	△30.1
	営業利益	1,904	911	△993	△52.2
	利益率	24.4	16.7		
制御システム事業	売上高	2,152	4,010	1,857	86.3
	営業利益	143	△164	△308	—
	利益率	6.7	△4.1		



単位：百万円/%	19年 12月期	20年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	24,903	23,439	△1,464	△5.9
自動車	8,624	8,759	135	1.6
住宅・建築	4,229	4,116	△112	△2.7
電機・電子部品	4,426	3,816	△610	△13.8
雑貨	1,691	2,101	410	24.3
精密機器	1,513	1,159	△354	△23.4
IT・情報機器	1,722	1,090	△632	△36.7
医療	204	279	74	36.3
エネルギー関連	179	202	23	13.3
その他	2,315	1,917	△398	17.2
営業利益	548	557	8	1.5

・コロナ禍による世界的な購買意欲の減退ならびに生産活動の一時停止の影響をカバーしきれないものの、精密ねじの大幅増と秋以降の受注回復にて売上の減少は小幅に留まる。

◆自動車業界

- ・松浦屋の子会社化が売上に寄与。全体として昨年秋以降に受注が回復し、前期比同水準を維持。

◆住宅・建築

- ・オリンピックの延期ならびにコロナ禍による住宅着工減により、販売減少。

◆電機・電子部品

- ・パソコンの需要増が寄与するも、コロナ禍の影響により、国内、海外需要ともに低迷。

◆雑貨

- ・各種のゲーム機が好調で精密ねじ生産増。

◆IT・情報機器

- ・コロナ禍の影響により、国内、海外ともに低迷。

◆医療

- ・医療器具や医療用検査機器向けねじが伸長。

セグメント別業績概要～産機事業

単位：百万円/%	19年 12月期	20年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	7,800	5,454	△2,346	△30.1
自動車	4,763	3,722	△1,041	△21.9
電機・電子部品	855	612	△243	△28.5
住宅・建築	124	180	56	45.4
エネルギー関連	172	147	△25	△14.7
遊技機	47	85	38	80.0
IT・情報機器	107	78	△29	△27.3
医療	16	52	36	—
雑貨	33	13	△19	△58.9
その他	1,683	565	△1,118	△66.4
営業利益	1,904	911	△993	△52.2

- 自動車関連を中心に、全体的にコロナ禍の影響により、設備投資は見合わせとなり、売上の減少となった。
- 海外は、米国で引き合いは低迷したが、中国、タイは回復し、一定の売上に貢献した。

- ◆自動車
 - 生産台数の減少により、設備投資は抑制、延期。
- ◆電機・電子部品
 - コロナ禍により国内、海外ともに受注は低調に推移した。
- ◆住宅・建築
 - 電力、ガス機器、ならびに施設などの床用アジャストボルトの組立設備を新規受注。
- ◆エネルギー関連
 - 家庭用電池組立の引き合いはあるものの、設備投資が延期等計画変更。
- ◆IT・情報機器
 - スマートフォン関連の仕事を一定量確保したものの、期待していた基地局関連の設備投資が延期等計画変更。

単位：百万円/%	19年 12月期	20年 12月期	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	2,152	4,010	1,857	86.3
化学・薬品	198	1,240	1,042	—
エネルギー関連	19	505	486	—
住宅・建築	588	333	△255	△43.3
造船	221	209	△12	△5.5
自動車	315	168	△147	△46.8
医療	0	144	144	—
食品	70	116	46	66.0
その他	741	1,295	553	74.6
営業利益	143	△164	△308	—

・4月に子会社化した日東精工アナリティックの売上寄与により、セグメントの売上が大幅増加。しかし、企業取得に関わる費用の計上ならびに、好採算製品である地盤調査機や部品検査装置の低迷により、収益面では大幅な減益。

◆化学・薬品

- ・日東精工アナリティックを子会社化し、元素計、水分計の売上を加算。

◆エネルギー、医療

- ・日東精工アナリティックを子会社化し、石油業界向け分析器の売上を加算。

◆住宅・建築

- ・コロナ禍の影響で住宅着工件数が減少し、ジオカルテの受注が減少。

◆自動車

- ・部品検査装置「ミストル」の案件が、凍結、延期となるも、秋以降やや回復。

◆食品

- ・巣ごもり需要により、家庭用調味料やインスタント食品が好調で、食品、飲料メーカー向け流量計が牽引。

2020年12月期 第115期(連結)貸借対照表



単位：百万円／％	19年12月期		20年12月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	28,726	62.5	27,704	59.9	△1,021	△3.6
現金及び預金	10,103	22.0	9,287	20.1	△816	△8.1
受取手形/売掛金	11,319	24.6	10,543	22.8	△776	△6.9
棚卸資産	6,409	13.9	6,916	15.0	506	7.9
固定資産合計	17,263	37.5	18,409	40.1	1,146	6.6
有形固定資産	12,799	27.8	12,933	28.0	134	1.0
無形固定資産	234	0.5	1,421	3.1	1,187	—
投資その他の資産	4,229	9.2	4,162	9.0	△66	△1.6
資産合計	45,989	100	46,222	100	233	0.5
負債の部						
流動負債合計	12,074	26.3	11,618	25.1	△456	△3.8
支払手形・買掛金	7,112	15.5	6,674	14.4	△437	△6.2
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,574	5.6	2,847	6.2	273	10.6
固定負債合計	4,313	9.4	4,745	10.3	432	10.0
負債合計	16,388	35.6	16,364	35.4	△24	△0.1
純資産の部						
資本金	3,522	7.7	3,522	7.6	—	—
資本・利益剰余金	24,808	53.9	25,202	54.5	393	1.6
自己株式	△1,288	△2.8	△1,279	△2.8	9	0.7
純資産合計	29,600	64.4	29,858	64.6	257	0.9

2020年12月期（連結）キャッシュフロー計算書



単位：百万円	19年12月期	20年12月期		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	2,633	3,321	687	26.1
投資活動によるCF ※②	476	△3,118	△3,595	—
（フリーCF） ※①+②	3,110	203	△2,907	△93.5
財務活動によるCF	△665	△870	△205	—
現金及び現金同等物の増減額	2,426	△712	△3,138	—
現金及び現金同等物の期首残高	6,055	9,012	2,956	48.8
現金及び現金同等物の期末残高	9,012	8,299	△712	△7.9

2021年12月期（連結）業績予想



単位：百万円／%	20年12月期		21年12月期（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	32,904	100.0	38,000	100.0	5,095	15.5
営業利益	1,303	4.0	2,400	6.3	1,096	84.1
経常利益	1,418	4.3	2,600	6.8	1,181	83.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	764	2.3	1,600	4.2	835	109.2
一株当たり当期純利益（円）	20.78		43.46			

- コロナ禍の反動で、国内外とも自動車関連を中心に需要が回復し、増収増益の見込み。
- EVやCASEに関わる設備投資が活発で、ファスナー・産機事業の売上伸張を見込む。
- 昨年4月に子会社化した日東精工アナリティックが制御事業の売上拡大に貢献。
- メディカル事業が本格始動。

セグメント別売上高・営業利益予想（連結）



単位：百万円/%		20年12月期	21年12月期 (予想)	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	23,439	25,900	2,460	10.5
	営業利益	557	890	332	59.7
	利益率	2.4	3.4		
産機事業	売上高	5,454	6,400	945	17.3
	営業利益	911	1,260	348	38.3
	利益率	16.7	19.7		
制御システム事業	売上高	4,010	5,615	1,604	40.0
	営業利益	△164	284	448	—
	利益率	△4.1	5.1		
メディカル事業	売上高	—	85	85	—
	営業利益	—	△34	△34	—
	利益率	—	△40.0		

